



人は

パン

第一王子

昔々
ある所に

白夜王国と
暗夜王国という

二つの国が
ありました

白夜王国には
リヨウマという
第一王子様が
居りました

強くて器用で
優しくて

才能に恵まれた
完璧な王子様でした

暗夜王国には
マークスという
第一王子様が
居りました

けれど彼は
「リヨウマ」では
ありませんでした



それは



『流石は
マークス様』

『マークス様は
完璧だ』



王子の血の滲む
ような努力で

作り上げられた
ものでした



『努力の天才』
でした

.....

マークスは
いわば



『努力家な
天才』でした

対して
リヨウマは



マークスはリヨウマが
妬ましくなりました



マークスはリヨウマが
羨ましくなりました



リヨウマは…

……



リヨウマはあまりに完璧過ぎて人間味の薄い王子様でした



もし彼が何を考えているのかが分かれば



それ故にマークスには彼が何を考えているのか彼の心を読み取ることが出来ませんでした



憧れる男のことが理解できたなら自分もより「完璧」になれるのかと



マークスはそう思ったのでした



悩んでるのね



……強引な
女め……

隠しても無駄よ
何を悩んでるの？

それとももつと
大勢の前で
問い詰められたい？



な…なんだ急に
勝手に人の部屋に
入ってきて…

私が悩んでいると
占いにでも
出たのか…？

違うわよ
最近のあなたを
見てれば分かるわ

伊達にあなたより
長生きじゃ
ないんだから

何を言う……
悩みなど無いぞ



私ももっと
私の求める姿に
近付けるかと…

そう
思うだけだ…



そいつが何を
思っているのか
理解できたら

奴に見えている
ものが見れたら



……



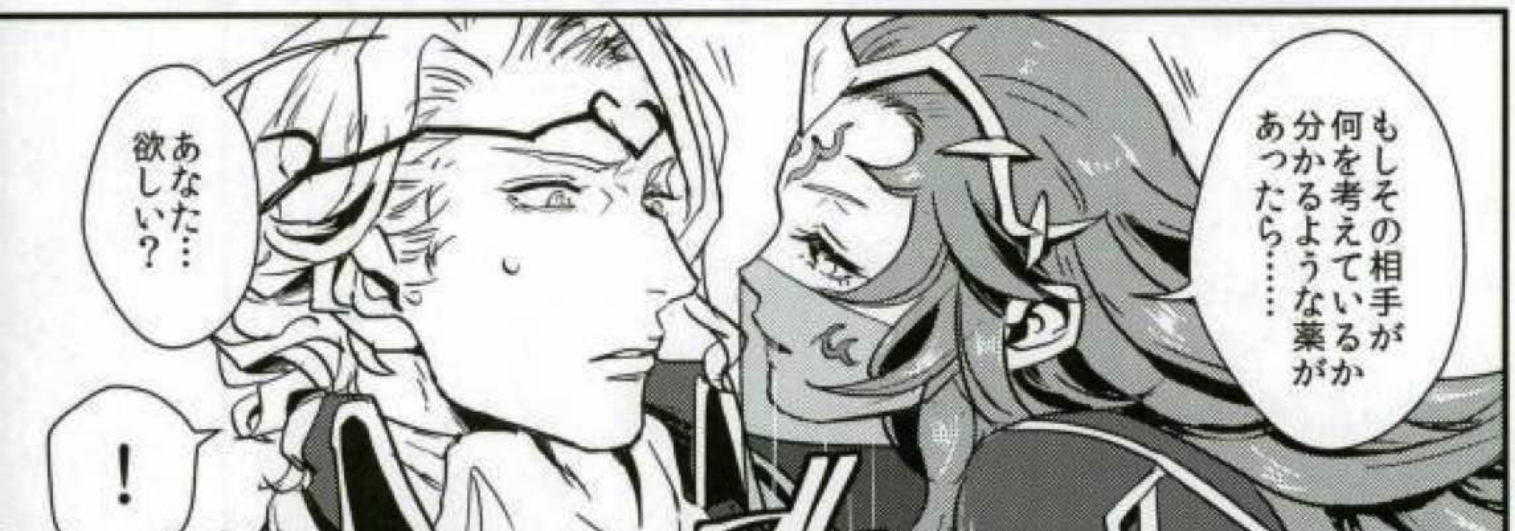
……
ねえ



…あなた…
分かりやすい
わね…

何が

いえ…



もしその相手が
何を考えているか
分かるような薬が
あったら…

あなた…
欲しい？

!



その薬を含んだ者は
心に思ったことを
そのまま口に出して
しまうようになるの

つまり本音を
喋ってしまう薬

薬と言っても
大袈裟な事は無いわ

要は私の魔法が
込められた薬よ

あなたが欲しいなら
プレゼントできるけど……



そ…そんな
ものがあるのか…?

ええ



どう？
欲しい？

…いやしかし…！
そのような魔法の
力で人に内心を
語らせるのは…！！

人の上に立つ者が
そんな卑怯な…！！



あの何を考え
ているか分から
ない男の考え
がわかる…！？

—3分後—

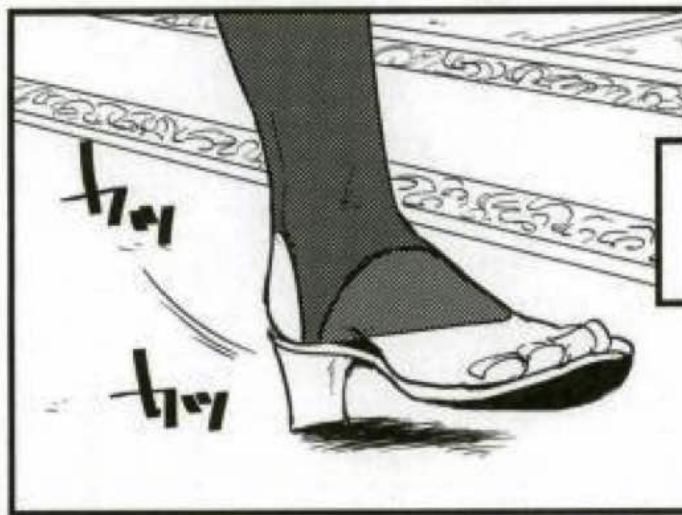


じゃ

また必要なら
言つてちょうだい

金を
買つて
しまつた…！！

くっ…



一度だけ…
試してみても
良からう…



ニユクス
少しいいか

なあに？



マークスつたら？
あれで隠す気
あるのかしら…？
誰のこと
言ってるのか
バレバレじゃない…



…あら…
あなたは…



…っ…

…

キヤツスル内
リヨウマの部屋



—その日の夜



一滴……
ほんの一滴
垂らすだけで……

リヨウマが来たら
バレないように奴の
グラスに薬を一滴……



……
ほんの二滴で
充分効くから
使いすぎない
ようにね

いい？この薬は
使いすぎると
副作用が起きる
場合があるわ



……今更ここで
やめるものか……
やると決めたら
やるのだマークス……

ちよつと内心を
語らせるだけで……

大丈夫……
別に悪いことじゃ
ない……大丈夫……



今宵は酒に
誘ってくれて
感謝する

お前と酒が
飲めること
嬉しく思うぞ

あ……ああ……
こちらこそ……

う……良心が……
痛むな……



なんだ

居るなら声を
かければ
良かるうに

入って……

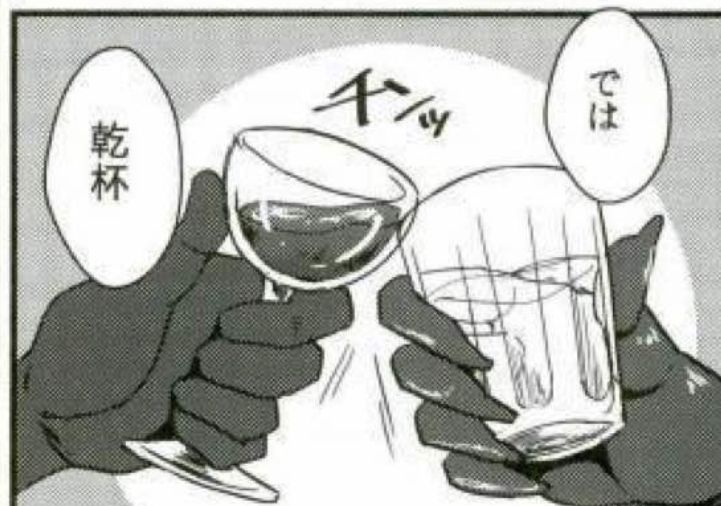
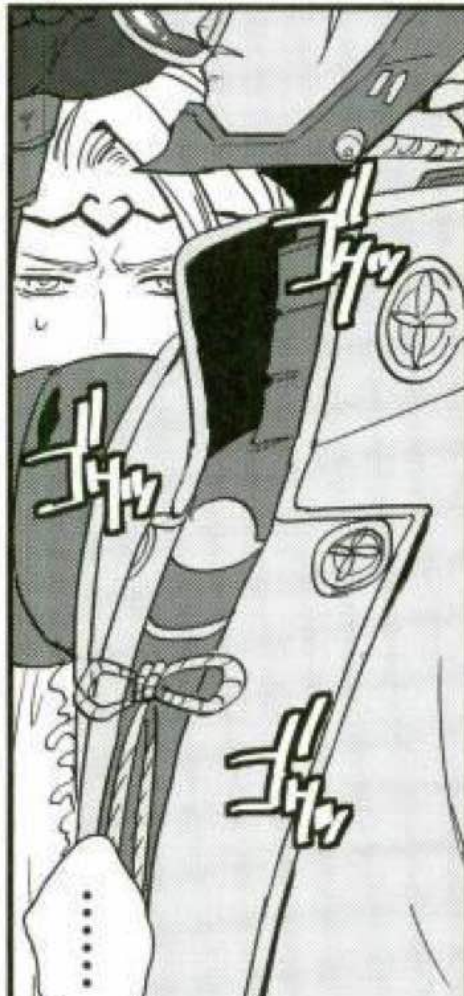
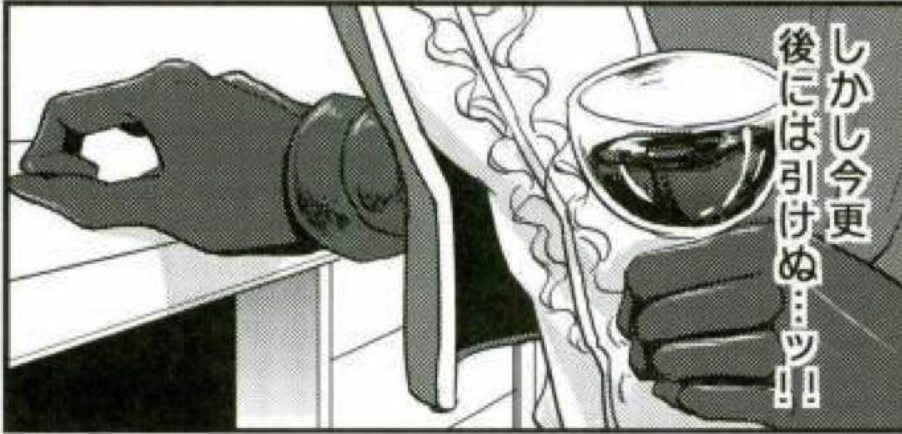


マークス王子

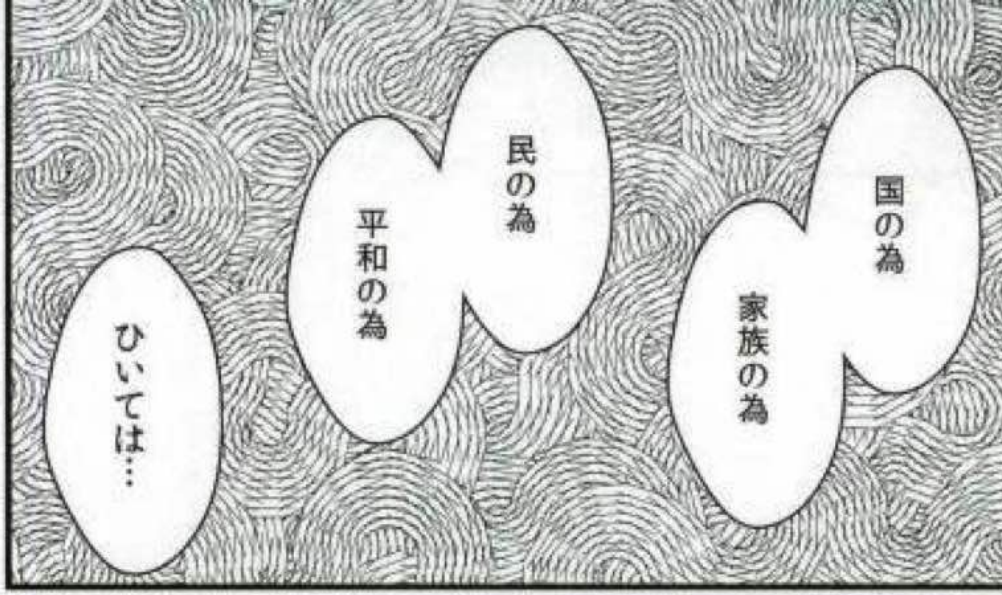
いるのか？

あ……ああ……

！









だから私がこの男に
なりたいと思うでも
永遠になれるもの
ではないのだ…
きつと

真っ直ぐで力強くて
まるで太陽のような
この男は
日陰で育って来た
私にはあまりに
眩しい



正直
抱きたい



でも逆に
この男から
見た私は…

お前は…



この男から見れば
私はきつと…

お前は私をどう
思っている…？



…ッ!?

…ッ!?

!?



本音を喋る薬
なのだから
本音なのは
明白だっ!!

今のは俺の
言葉では……っ
いや……っ……

!?

お……お前……っ!!
私をそういう目で
見ていたのか……!?

ち……っ
違う!!

俺なのだが
そうではなくて
……っ!!



薬……!?! お前俺に
何か飲ませたと
いうのか……!?!

まさか……っ お前も
ニユクスから薬を
もらったのでは
あるまいな……!?!

しま……っ

な……!?! お……
お前『も』とは
どういう意味だ……!?!

……俺もお前に
飲ませた

!?



わっ私にそんな
薬を飲ませて
どうするつもり
だったんだ!?!

お前こそどうい
つもりでそんな物を
俺に飲ませた!?!

わ……っ私
そんな邪な
理由ではなく
……っ

お前は私をそういう目で
見ているから邪な理由で
そんな不埒な……ッ

薬を……



※ご使用の際は
 用法用量を守
 って正しくお
 使いください。
 一度に多量に
 摂取した場合、
媚薬 効果
 が現れます。

!?



ちよ……ちよつと
 だけ……多めに……



!?

せ……責任……!?

せ……っ

どう責任を取って
 くれるのだ……

!?

……どうやら
 お前のせいで今
 俺は大変なこと
 になっているぞ……っ



ん……!?

す……すまないっ
 そんな効果が
 あるなんて
 知らなか……っ



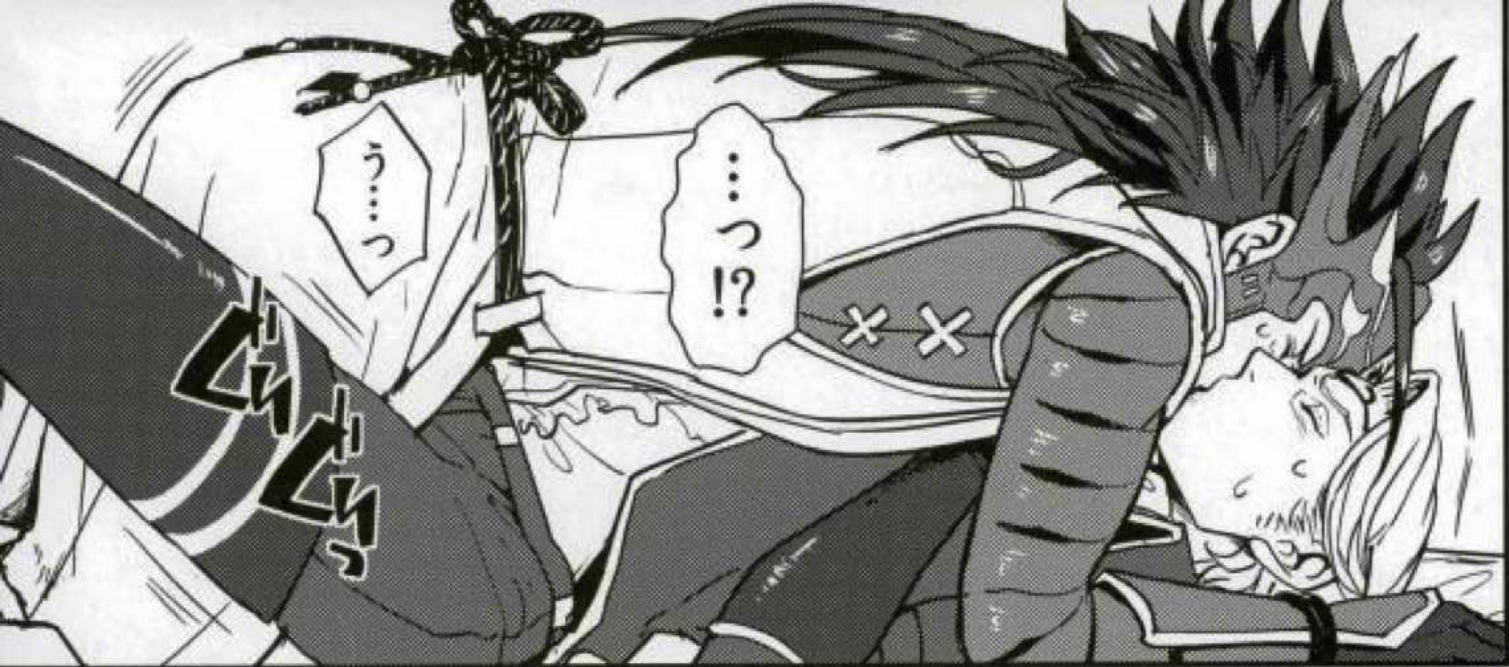
!?

ん……ッ!?



ん……っ

ふ……副作用つて
 まさかこんな……!?





違…っ

私は…っ

お前に憧れて
いて…ツ…!!

あ…憧れ…?



お…お前は…っ

強くて器用で
賢くて

私が必死に努力して
得たものを全部
「才能」として持っている



それであの
薬をお前に…

…そうか…



まるで父上のように
完璧なお前は

私の理想
そのものなのだ

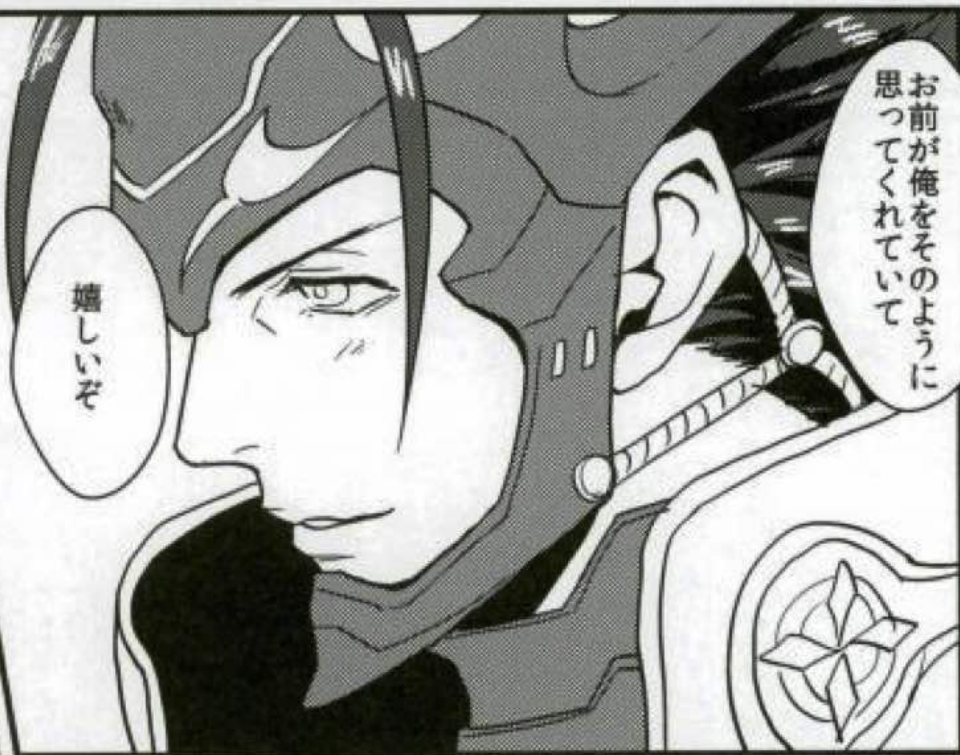
だから私はお前に
近づいたためにお前の
ことが知りたくて

妙な誤解をして
迫ってしまったって本当に
すまなかった…!!

いや…私こそ
お前に薬を
飲ませすぎて
しまっ…



しかし



嬉しいぞ

お前が俺をそのように思ってくれていて



馬鹿らしくなってしまった……

憧れるだけでなく醜い嫉妬までしていた自分が



ん……?

やはりお前は完璧な男だ



私に憧れだと言われて変に謙遜したりしない

自身を持って素直に嬉しいと言える

そういうところが男前なのだお前は



さぞ情けなく写っていることだろうな

きっとお前の目には私は



何を…っ!?

…!?

ガミッ



俺は知っているぞ



俺がお前を情けなく思うだど?

!



夜中まで書物
を読んで勉強
していること

暇があれば
兵士一人一人に
声をかけて
いること

手がこのように
なるほど
朝まで剣を
振っていること



お前は俺に撞れて
いると言ったが

俺こそお前に
撞れているのだ
マークス

血の滲むような
努力で作られた
ものなのだ
俺は知っているぞ

周囲から完璧と言われる
今のお前の姿は



だからお前に
気持ち
を吐露させた
くて

あんな薬に
手を出した

そ...それでこんな
有様だ.....

本当にすまない...
どうかこの醜態を
忘れて欲しい...

もう一生分の
恥はかいた...



俺はお前が
好きなのだ
マークス



国の頂きに立つ
存在でありながら
誰よりも努力する
その姿に俺は惚れた



…ん？

マークス？
どうし……

!?



お…お前

ゴッ

何を言っ……!!



…マ…

マークス
……!!

…薬のせいで
辛いのだろう
……っ……!!

せ…責任
は取る…っ

ズルッ

責任って…!!

!?

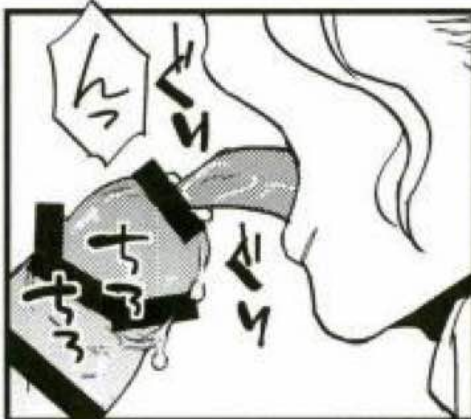
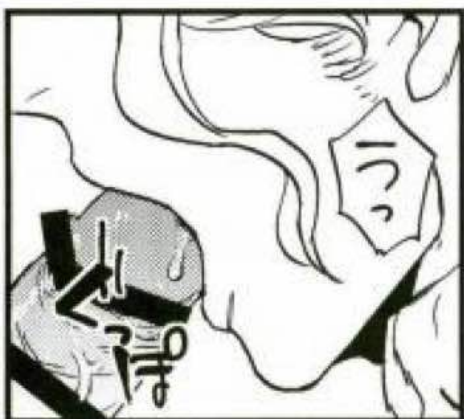


私を抱きたい
のだろう…？

そ…それは…
そうだが……

さっきは
勘違いして……





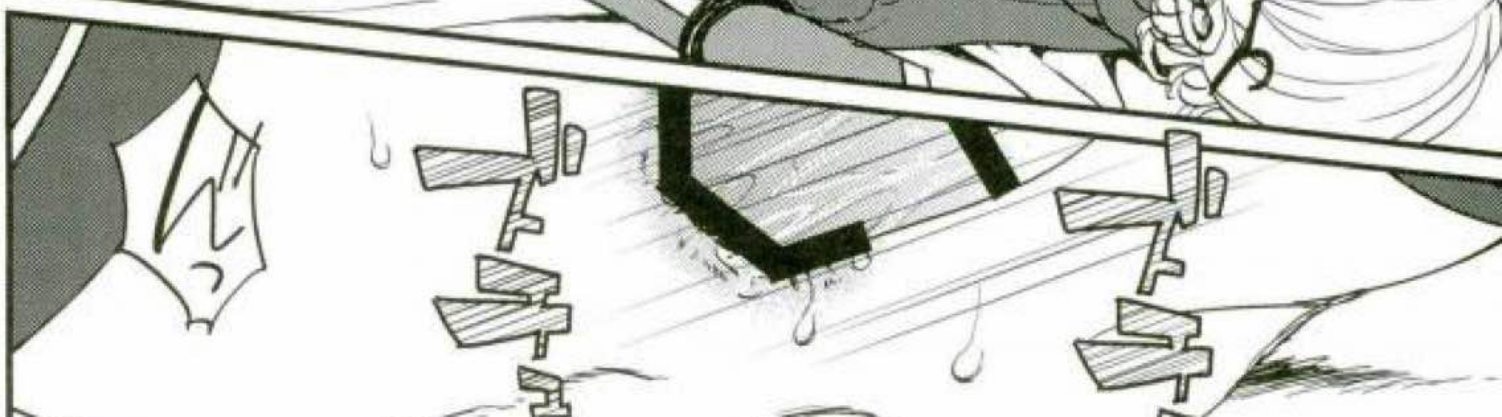














……か…?

ゴウッ

こいつが良きように
していたのは…っ

……っ
……っ



なあ…っ

マックス…ツ!!

いいのか…?

おろろろ

おろろ

……ツ!!



おい…っ

……っ
……!!



言っている

…口を塞ぐなど

……



ひっ...

何っ...!?

な...っ

!?



解ッ

腕をつ

あつや...め
ろ...ツ!!

あつ...!!
イ...っ

...ここが
いいのか...??

ああッ



きせさっ

あ...ッ

お...つき...っ

ん...ッ

そ...



っ…はしたない男だな…っ!!

好きで言っている訳では…ッ!

はしたないと
思うなら…ッ…

あっ

うんぬん…

口を塞がせろ…っ…!!



マークス…っ



ザッ!!

!?



俺が
好きか…ッ?

!



…あくまで
言わない
つもりか…

…



あっ!
!?



何か...

そーッ

ああっ

ダメだッ

りよ
リヨウマッ

だめっ



あー

...ッ

ビクッ

マークス...?

あー

ビクッ



ん...ッ

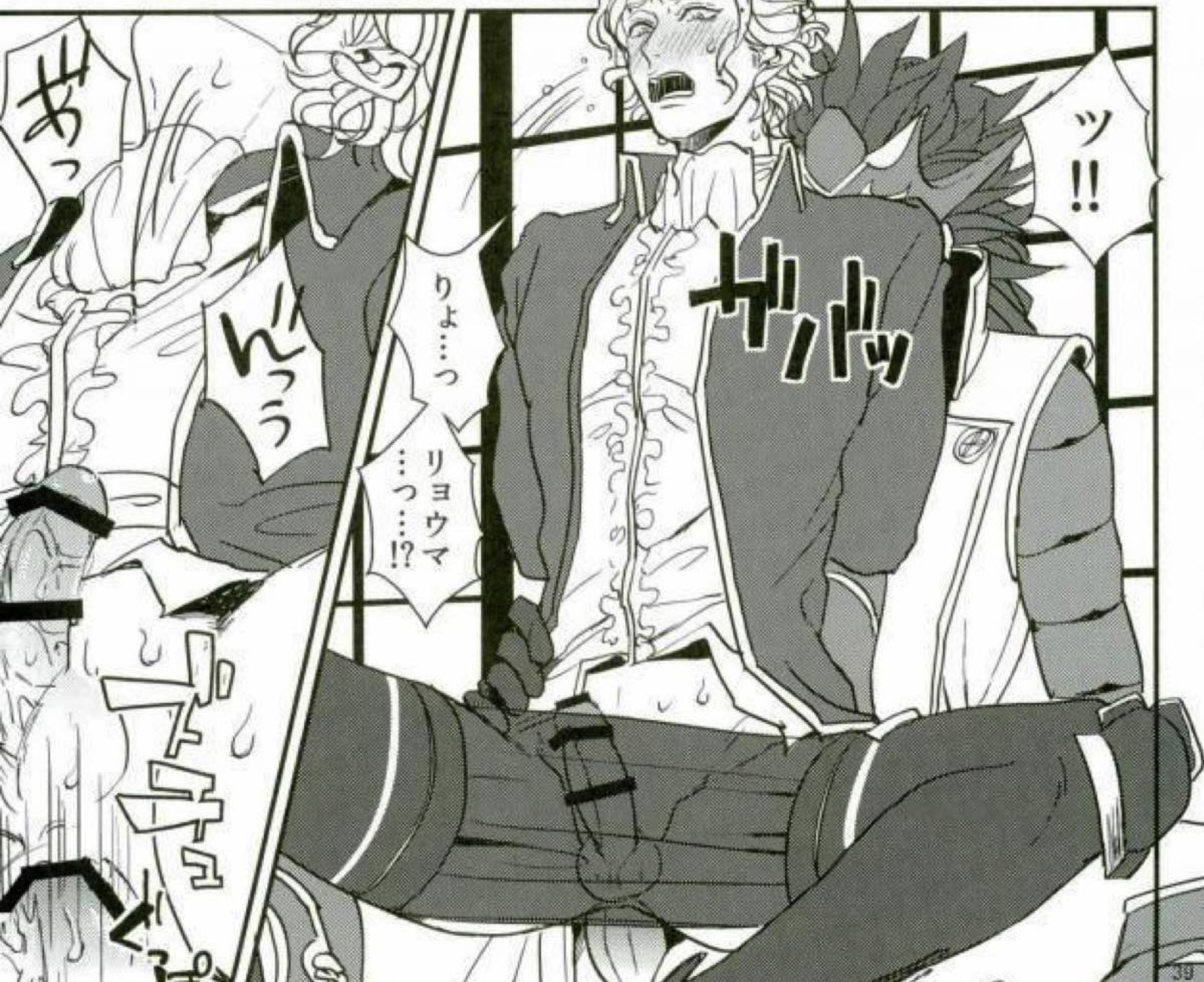
あっ

キム

キム

ビク

ビク





マークス
答える……

やめろっ

リョウマ……
これ……

いやだっ

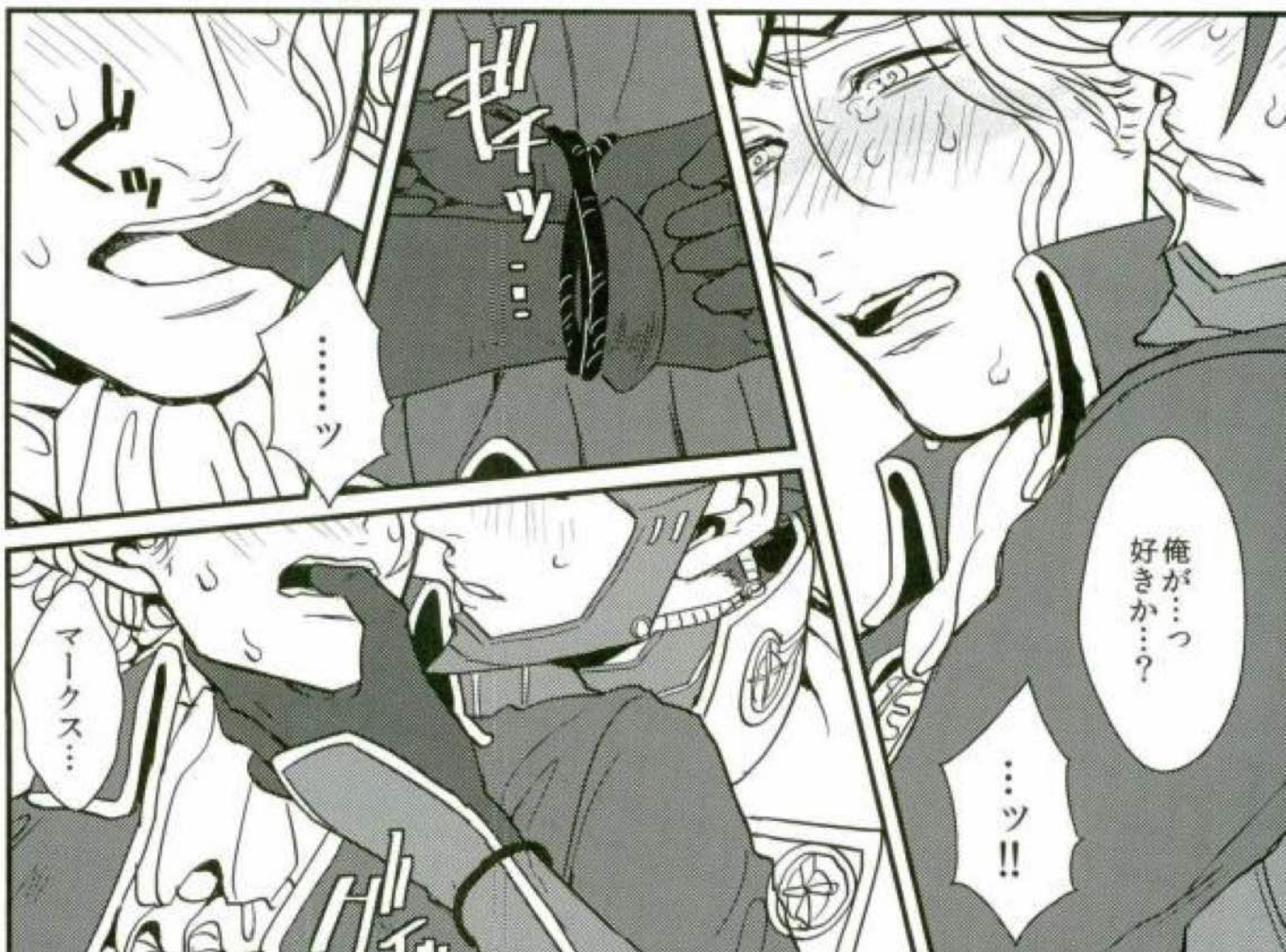
マークス……

フサ

フサ

あ

あ



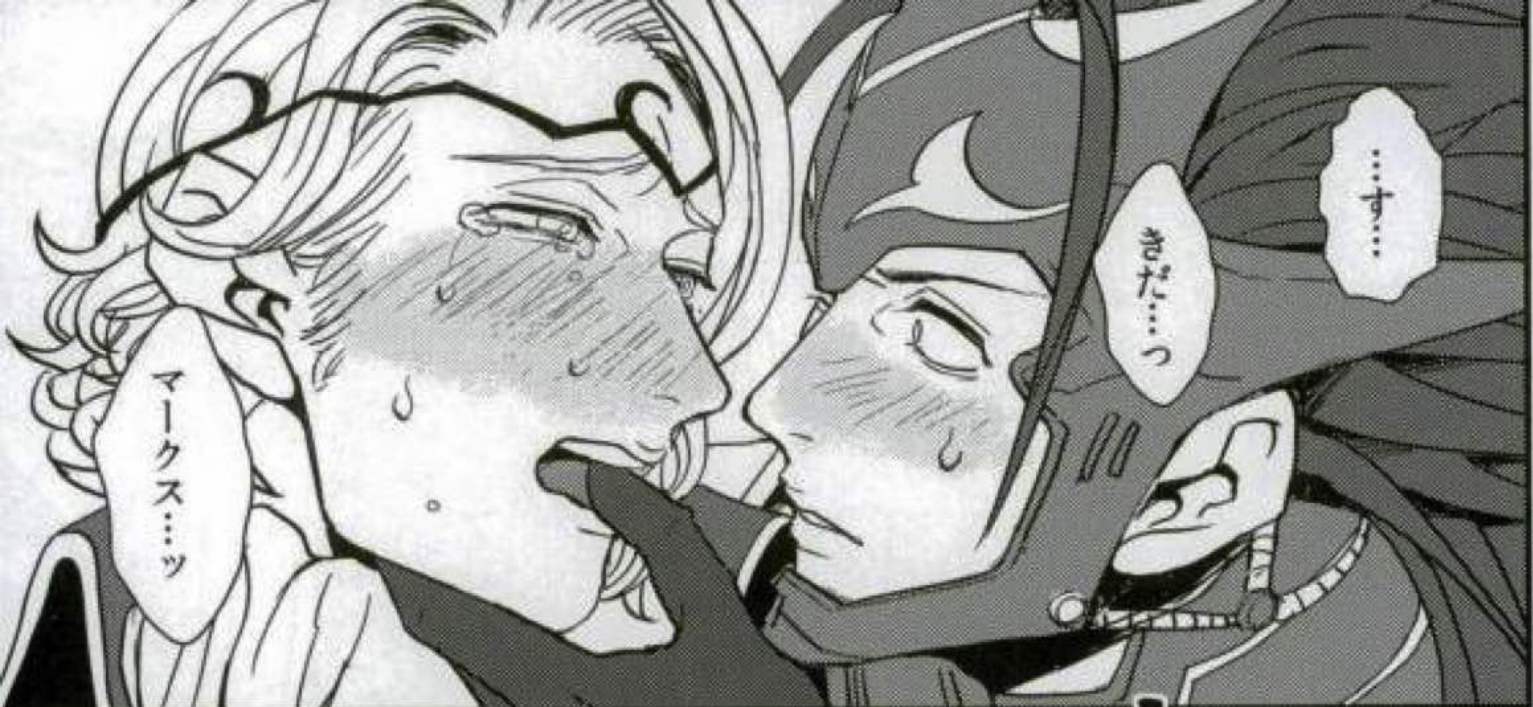
……ッ

あ
あ
あ

俺が……
好きか……?

……ッ!!

マークス……



マークス……ッ

まだ……っ

……す……



……でも……っ葉の力で
訳もわからないまま
言わされるのでは
なくて……

……自分自身さつきお前に
惚れだと言われたときに
初めて気づいたのだ……っ



ゴロ……ッ!!

!?

馬鹿者!!

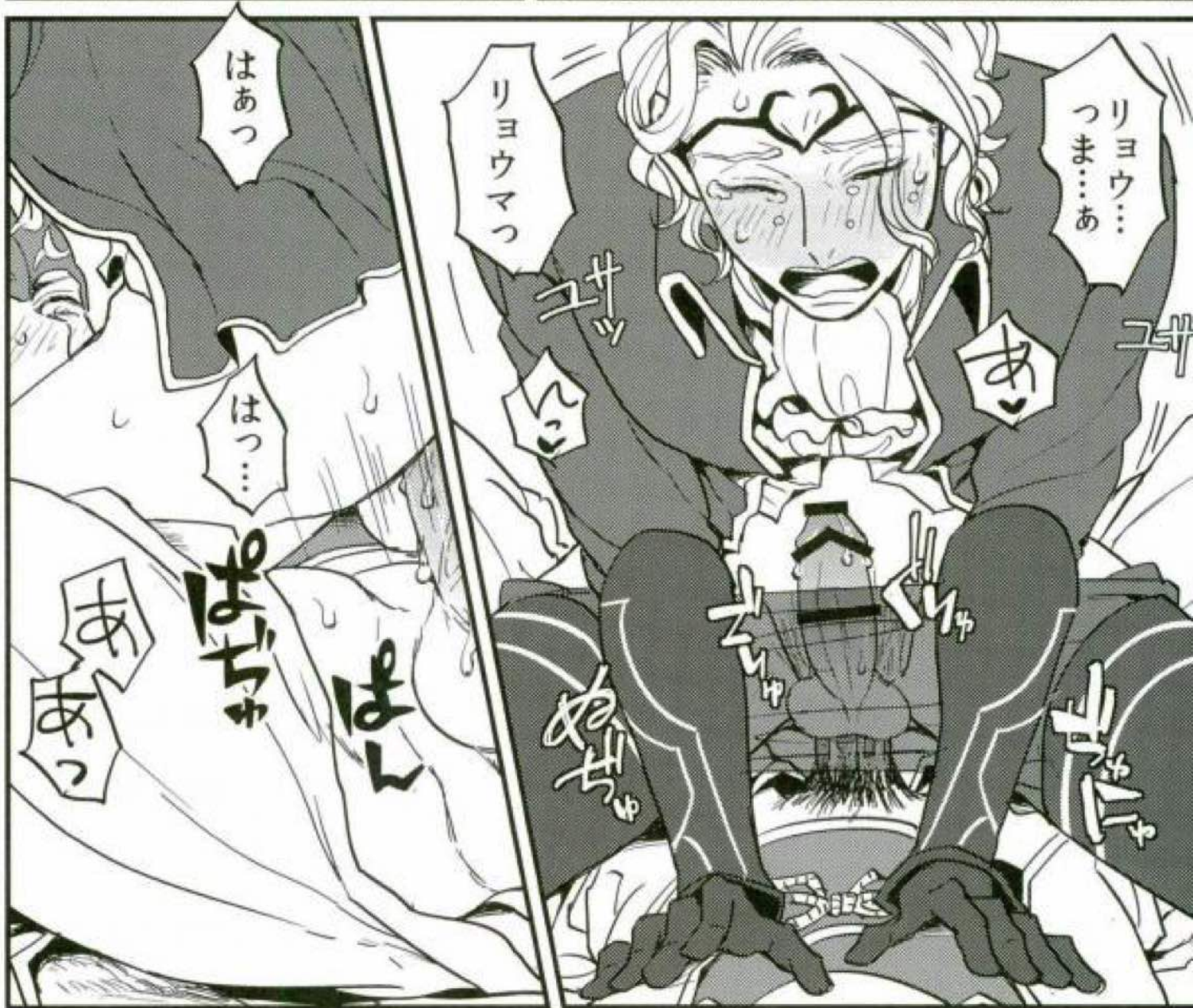


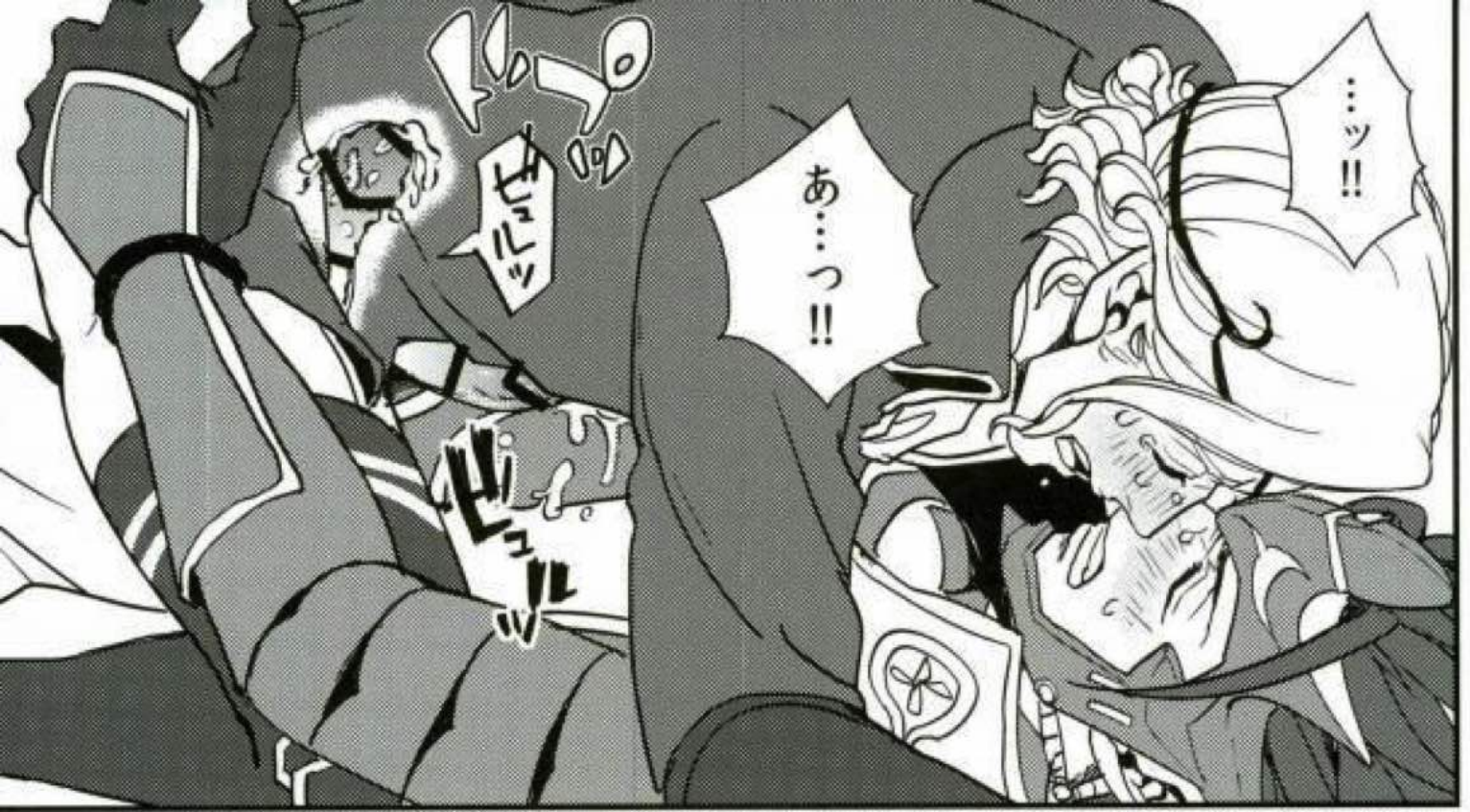
自分の言葉で
言いたいから……っ

黙っていたのに……っ

……ッ











素直になれる薬

はあ？なんで
僕が？
自分で訊きなよ



何があったのかよ
訊いてみてくれよ
レオン王子



あなた達も
飲んでみる？



……はあ？

昔々
あるところに……



白夜王国と
暗夜王国という

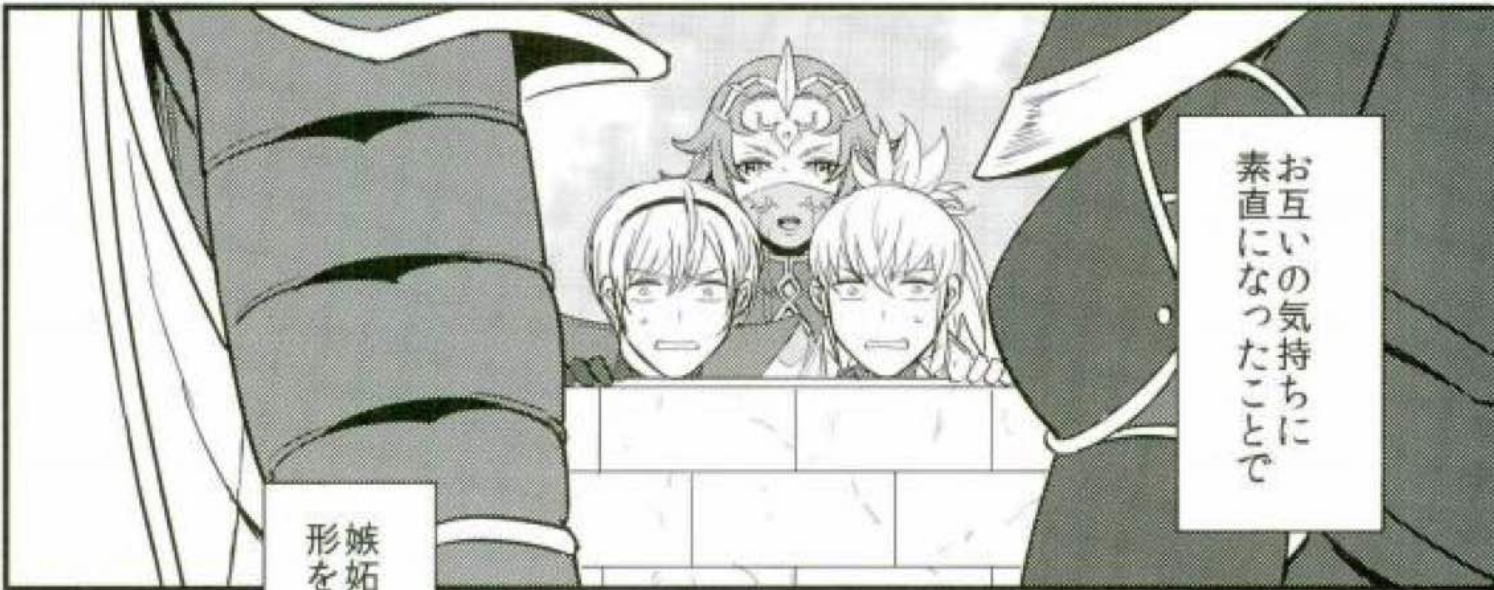
二つの国が
ありました



白夜の王子
リヨウマの才能を
妬んだことも
ありました



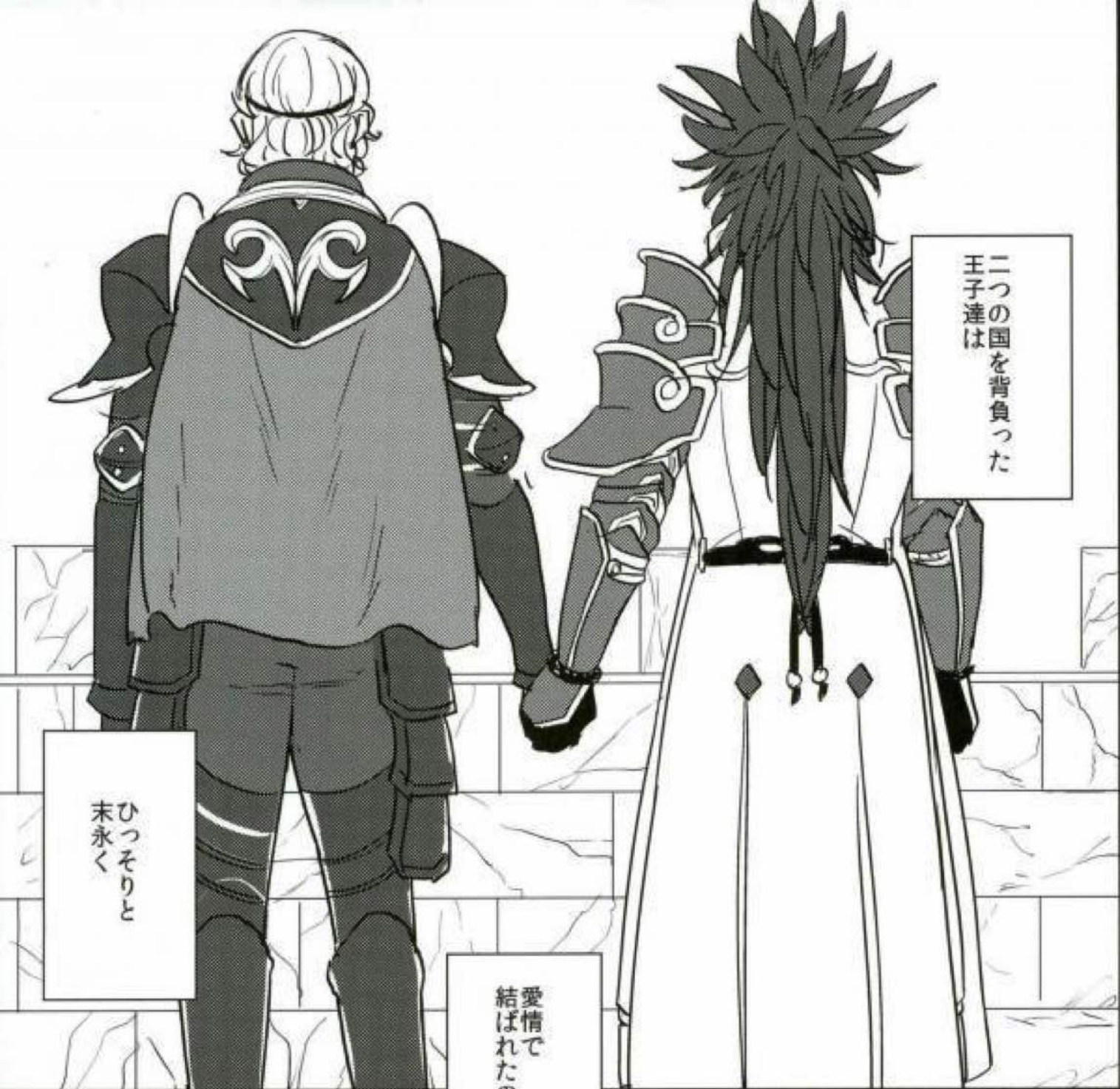
暗夜の王子
マークスは



お互いの気持ちに
素直になったことで

嫉妬は愛情へと
形を変えて

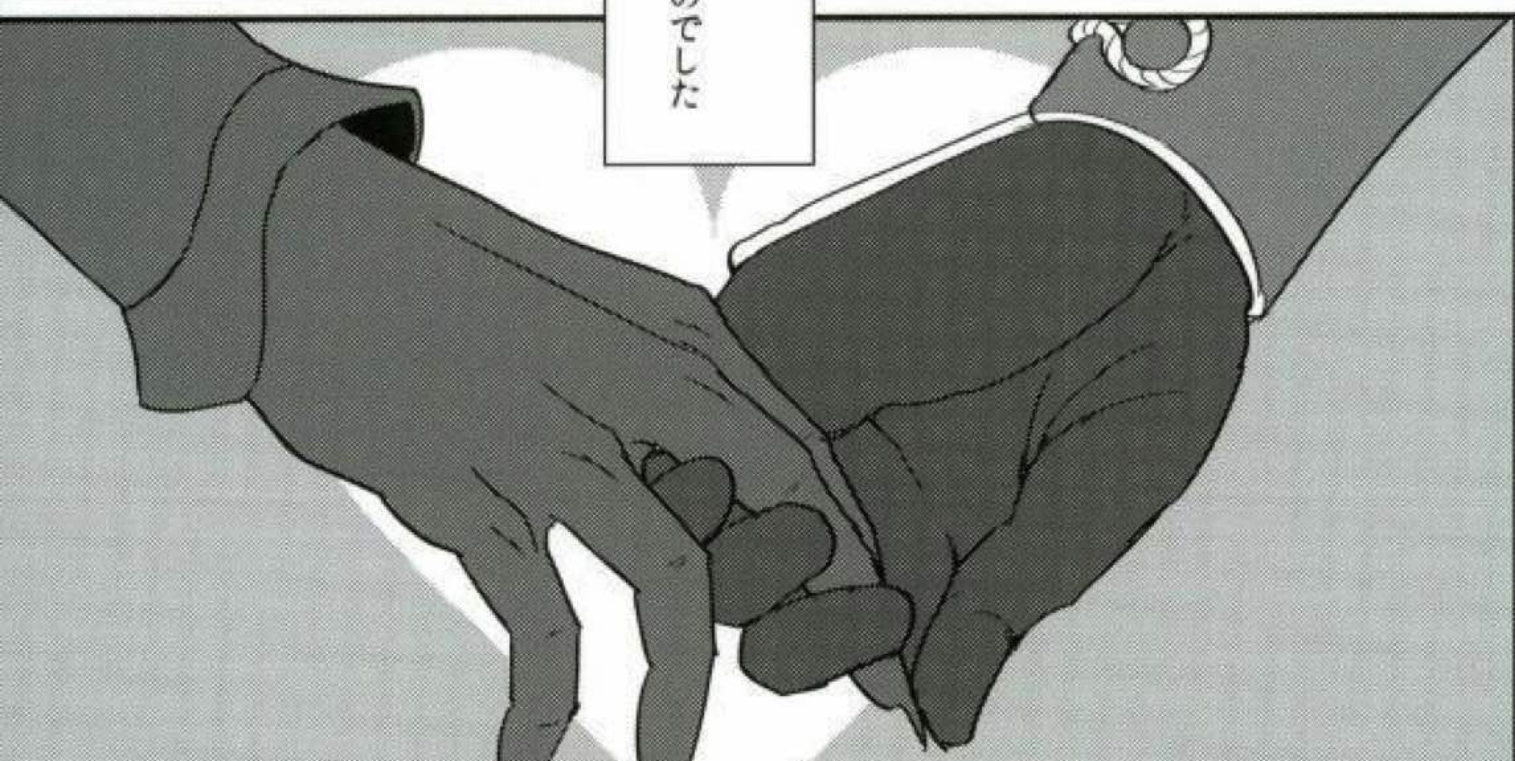




二つの国を背負った
王子達は

ひっそりと
末永く

愛情で
結ばれたのでした



First Love is... The First Prince!



Fire Emblem if FanBook
RyoumaxMarks
By Last Crime